

1 . 提 言

折尾の住民として、今後、北九州市と協働で「人が主役、やさしさいっぱいのみち」を目指すために、下記のことを提言します。

商業を中心とした賑わいの創造に関する提言

住民には快適・安全・便利な「生活空間」と、訪れる人には好奇心を満たす「都心空間」が調和する『交流・生活都心』を目指します。

高架下、市場街区、駅南北の新たな賑わいの核（駅北側：折尾警察署・土木事務所跡地、駅南側：駅前広場～2号公園～堀川沿い）を結び、商業を主とした賑わいの軸（歩行者の回遊動線）を形成する。

高架下空間は、周辺街区との連携や賑わいの連続性に配慮して利用形態を検討する。

市場周辺のエリアについては、折尾のみちづくりにとって重要なエリアであり、高架橋～堀川（駅北側）の一連の公共空間と市場の立地する街区が一体となったにぎわいの空間を目指す。

堀川（駅南側）の歴史的な経緯も踏まえ、水辺を活用した良好な環境の空間形成を目指す。

公共施設のデザインや景観形成に関する提言

歩行者空間を大切にしたい「歩いて楽しいまち」の実現を目指します。

駅前広場、高架橋、街路、公園などの個別の施設のデザインがバラバラにならないように、一貫した方針でデザインする。

高架橋の構造体と付属物（雨水の配管、架線柱、その他）と高架下空間が一体となって統一感のあるデザインとする。

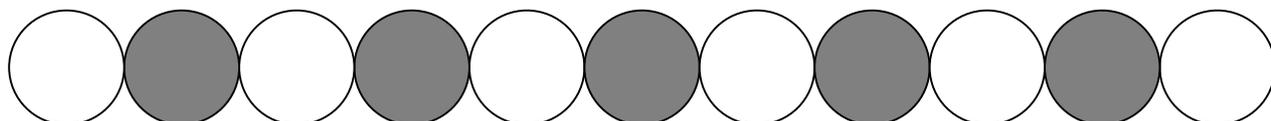
南北駅前広場とも、改札口を中心とした歩行者動線のわかりやすさ（視認性）や、歩行者の回遊性、溜まりの空間の確保などに配慮した駅前広場の計画とする。

北口は、交通機能だけでなく、潤いのあるデザイン・計画とする。

南口は、駅前広場、2号公園、堀川沿いなどとの連携や一体性を大切にして、魅力向上に寄与するデザイン・計画とする。

主要な街路は、折尾のみちを印象づける重要な路線であるという認識で、歩いて楽しい街路空間を実現していく。

歩いて楽しい街路空間を実現していくためには、公共施設としての道路のみならず、沿道の敷地・建物のつくり方・使い方のルールも必要である。



歴史的建造物の保全と活用に関する提言

歴史的建造物を活用したまちを目指します。

現在の折尾駅舎は、文化の保存を主目的とする地域の人々が活用できる「生きた施設」として保全することを優先する。

シンボルとなる部材や歴史を伝える部材を活用し、歴史性の継承に優れた、堀川及び現駅舎に最も近接した南口駅前広場での保全を望む。

ねじりまんぼを含む東側三連の保全・活用を図る。

ねじりまんぼの文化と技術を継承できるような方法で、貴重な土木技術の伝承が図られる場所に保全し、活用を図る。

その他の歴史的建造物については、地域で長い間共有化されたものは、できるだけ現状に近い形で保全に努めるが、今後、所有者等の意向を十分に確認して取り扱う。

すべての人にやさしく、安全・安心なまちづくりに関する提言

「人が主役、やさしさいっぱいのもち」

年齢・性別・国籍・障がいにかかわらず、だれでも安心して、自分の意思やペースで出かけられるまちを目指します。

ユニバーサルデザインのまちを実現していくために、計画段階からわかりやすく情報提供を行い、より良いハードの充実を目指す。

駅周辺には、生活者・来訪者の暮らしの向上や交流・文化活動ができる場所を確保する。

駐車場・駐輪場としての利用が想定される高架下空間や、南北通路については、不安な場所にならないよう、防犯性と快適性に配慮した空間とする。

より良い折尾のまちづくりの実現に向けて

折尾地区総合整備事業は長い期間を要する事業であり、工事期間中も快適に過ごすことができ、完成時に暮らしやすい街となっているためには、関係者が知恵を出し合って、まちづくりの進め方を工夫して頂きたい。

今後、具体化される事業については、「おりお未来21協議会」と情報を共有し合い、上記の提言をもとに進めていくことをお願いしたい。

駅や高架橋については、折尾のまちづくりの顔となるため、今後は、市のみならず、鉄道事業者も含めて三者の連携を図ることをお願いしたい。

